

寫眞週報

内閣情報部編輯
十月廿六日 第七號

昭和十三年十月廿六日發行 第一回本報日發行 第七號



軍艦旗に榮光あれ!



健康なくして国力の充實は望み
得ない。……病弱者や虚弱者は
速に強壯を謀りて一致強壯に
進まねばならぬ。

補血
強壯

ポリタミン

病弱者の人、病中病後で衰弱した人
食欲のない人、虚弱な小児に……

病

身な人や衰弱患者にとつて一番大切な
栄養素は蛋白質(肉や卵の主成分)であ
りますが、蛋白質はそのまゝでは栄養にならず
必ず胃腸で消化をうけてアミノ酸になつてから
でないと吸収されません。ですから

胃

腸の弱つた病弱者には、蛋白質よりも
その消化性アミノ酸を用ひる方が一層
効果的であります。ポリタミンはこの見地から
精製、牛乳蛋白を人工的に消化してアミノ酸と
なしたものに、同じく栄養素としてなくてはな
らぬビタミンBを配したものです。

食欲を進め、身体を強くす!

即

ちポリタミンは、のむだけムダなく栄
養となつて體重を増すばかりでなく、
食欲をすゝめ、或はアミノ酸獨特の細胞賦活作
用によつて全身機能を盛んにしますから、相俟
つてからだを強く丈夫にします。

甘味の液剤

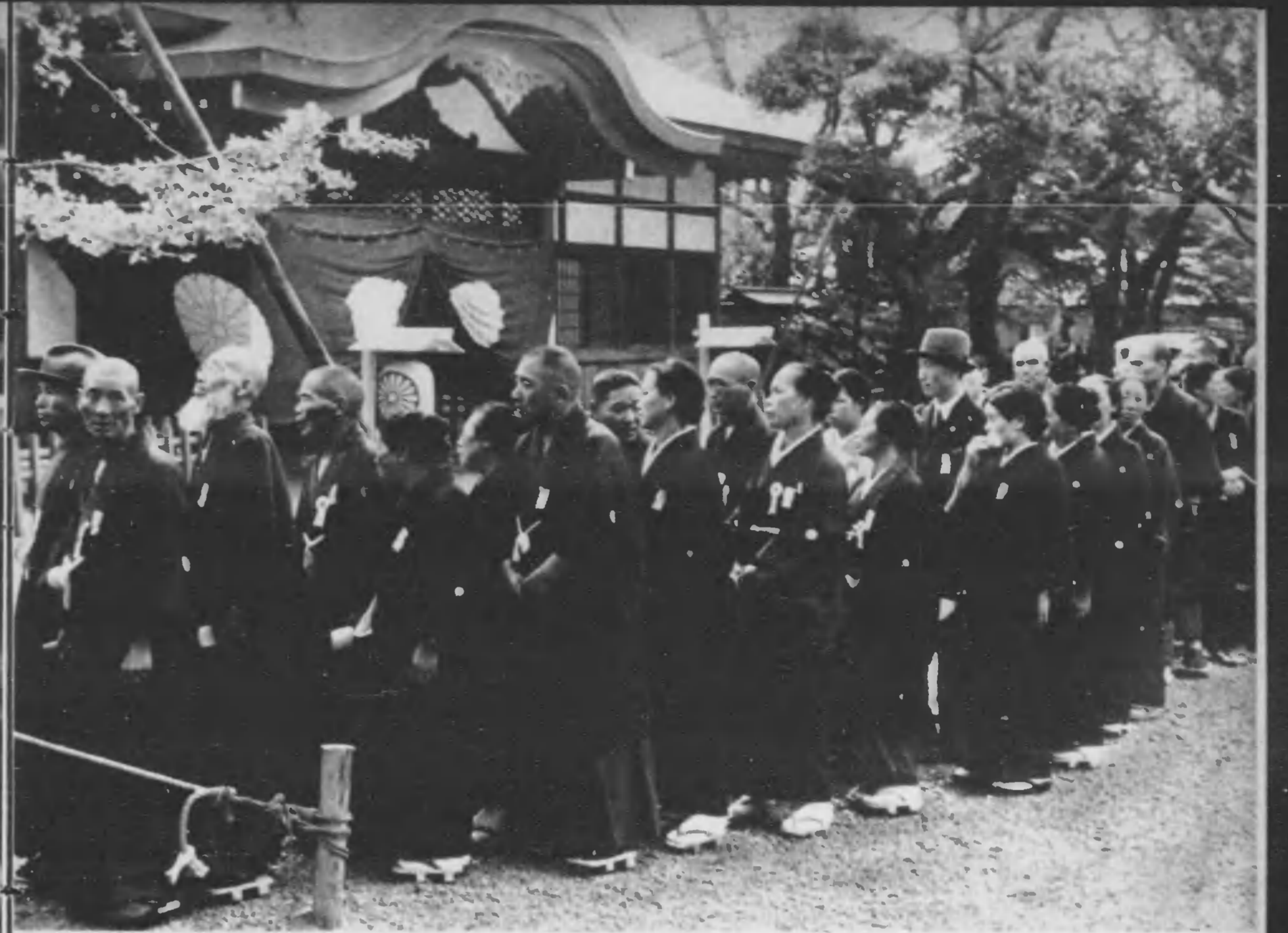
小瓶(一圓五五) 中瓶(二圓五〇)
大瓶(四圓五〇) 全藥店にあり

發賣元 武田長兵衛商店
大阪市東區



靖國神社
臨時大祭

事業に幸と散つた盛
忠の英靈一萬三千三百
四柱を擁護の神と合祀
する靖國神社臨時大祭
第二日、十月十九日に
は長くも、天皇陛下の
臨幸を仰ぎ奉り慶應盛
大に執り行はれた。新
合祀者遺族二萬餘名を
はじめ郷軍、青年學校、
青少年團等の各種團體
個人参加者約二百萬が
この日、この夜の九段
を埋め盡し献後の熱誠
を披瀝した。



↑ 拜殿前に押し寄せた入浴の活から銀貨、白銅貨、銅貨のしよきが上る。渡廊の電線にせめて燈明一本をとるける時、銃後の熱

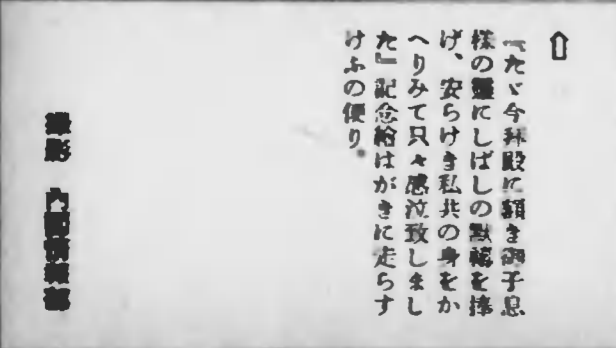
↑ 「兄様、只今私は兄様の御前に参りました。じつと捧げる慰問。電線に合掌すれば、周囲に人なく、寂として何の物音さへも聞こえない。



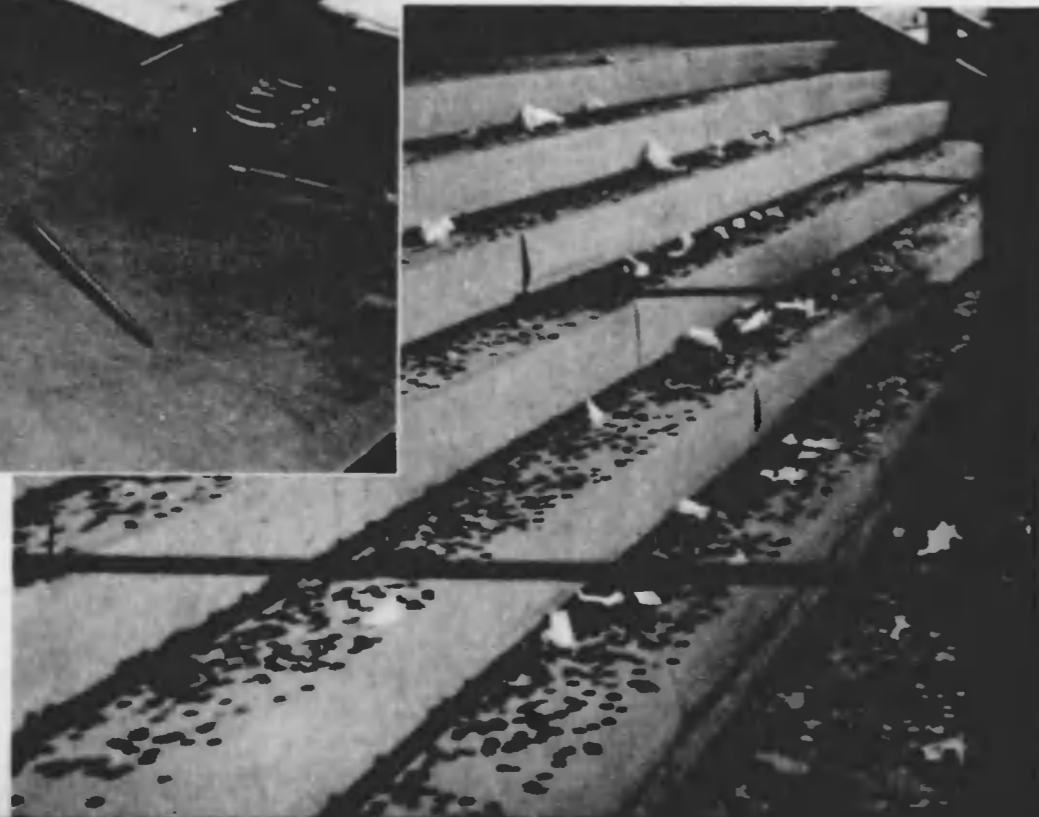
↑ 今臨時大祭にはさすがに見世物小屋の喧騒なく、露店も事変色。

↑ 参詣者は最近のレコードを破つてさしにも廣い九段坂上を人波で埋め、拜殿の前は文字通り身動きも出来ない程であつた。

↑ 夫を、兄を、子を神と祀る遺族約二萬は全朝から上京、十九日には恐れ多くも間近に龍額を拜し奉り、無上の榮譽に感激したのであつた。



↑ 「たゞ今拜殿に頼き御子息様の體にしばしの慰問を捧げ、安らけき私共の身をかへりみて只々感泣致しました」記念給はがきに走らすけふの便り。



堂 湾スアバ す陸上に



運送船から機舟へ、戦装具を身一杯につけて乗り込めば、機舟は風さへないパイアス機をエンジンの音も軽やかに滑るが如く速み行く。あれが南支の土だ。敵地の山だ。きつと前方をにらむ勇士の胸は痛むほどに引き緊まる



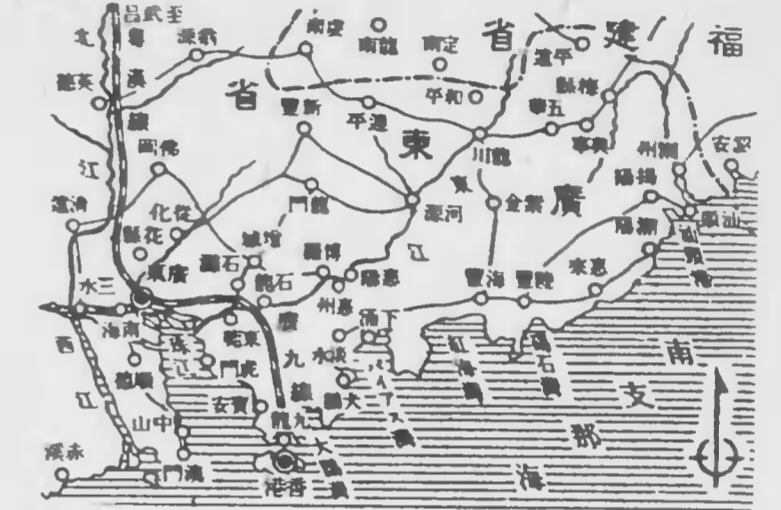
突撃一たび、たちまち特攻の一角を占領したわが先頭部隊は雄かに東天を舞って感涙の高きとなへた。陸の精鋭に協力する花軍軍は爆音高く中空を舞ひつゞける。

敵だ、敵の射撃だ。びたつと砂地に伏せて機銃をかまへれば、南支の砂は焼けるやうな熱さだ。内地では早や初雪が降つたといふのに、こゝではなほ日中百度を越える炎暑だ。



曙光にきらめく銃剣の光や雲、一歩々々進み行く勇士の定気や壯、既に敵を撃つ。

撮影
同題映写部

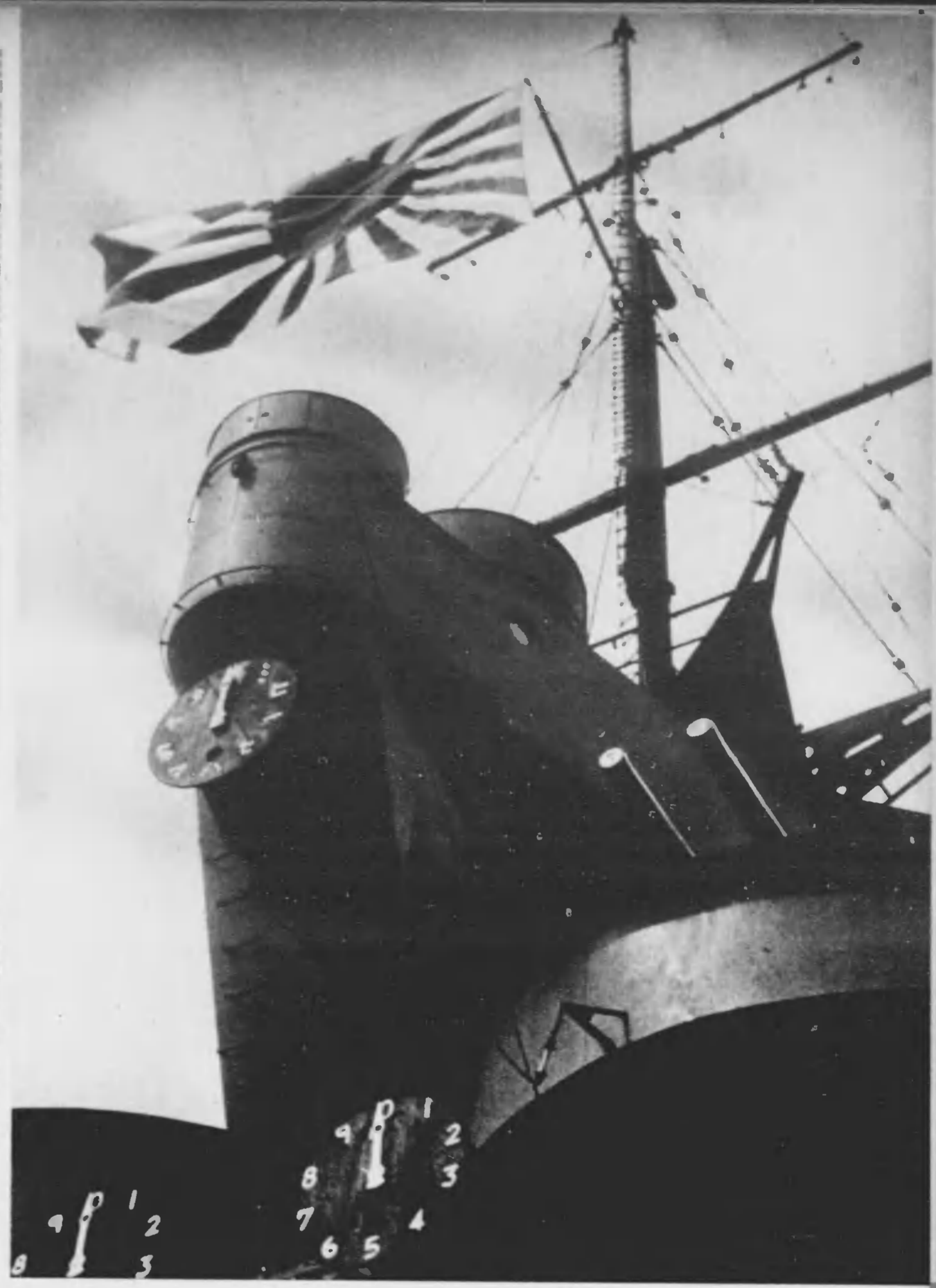


十月十二日拂曉、突如として敵の虚をつき、南支バイアス灣に敵前上陸を敢行した我軍は疾風迅雷、狼狽する敵を蹴散らしつゝ、十五日には長嶺五十キロ、早くも惠州を占領、十六日には長嶺道を切斷、十九日には要衝増城を占領、(廣東東方六十キロ)更に息つくひまもなく一路廣東へ、西へ西へと進撃をつづけてゐる。

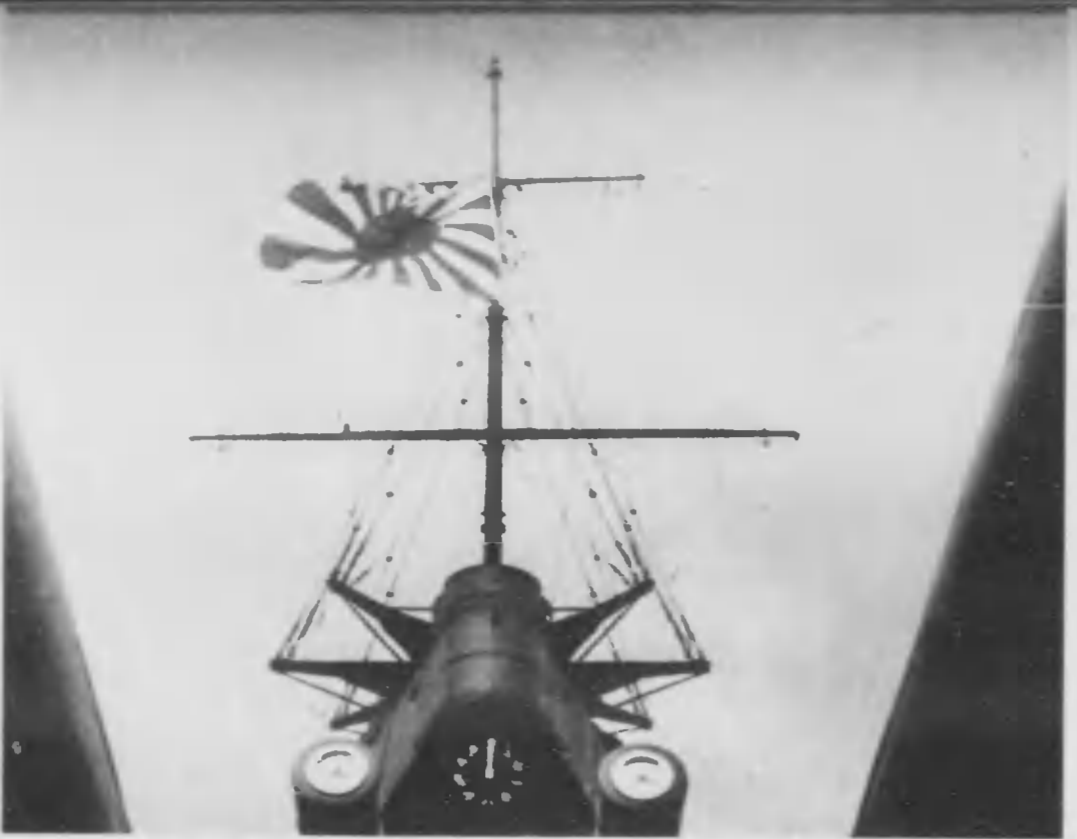
既に江南に江北に味方の敗勢しきりに至り、而も熱政權がたのみとした赤色ルート京漢線の據點信陽つひに陥落するの日、青天の霹靂の如き皇軍南支上陸の報は、蔣介石をして如何に驚愕せしめたことであらう。廣東防衛に極度の手薄を感じる彼は同方面第四戰區司令に李濟を任命、武漢防衛軍の一部を派して抗日の重要據點、廣東を死守すべきことを嚴命したといはれるが、怒濤の如き皇軍の前には如何程の抵抗をなしうるのであらうか。

また一方、江南の要衝、新石港も相ついで陥ち既に二十里の彼方に日軍旗の波を望んで、武漢不落の誓語も今は空しく、重慶に逃ぐべきか、昆明に走るべきか、蔣政権没落の前夜は徒らにはたいてい。



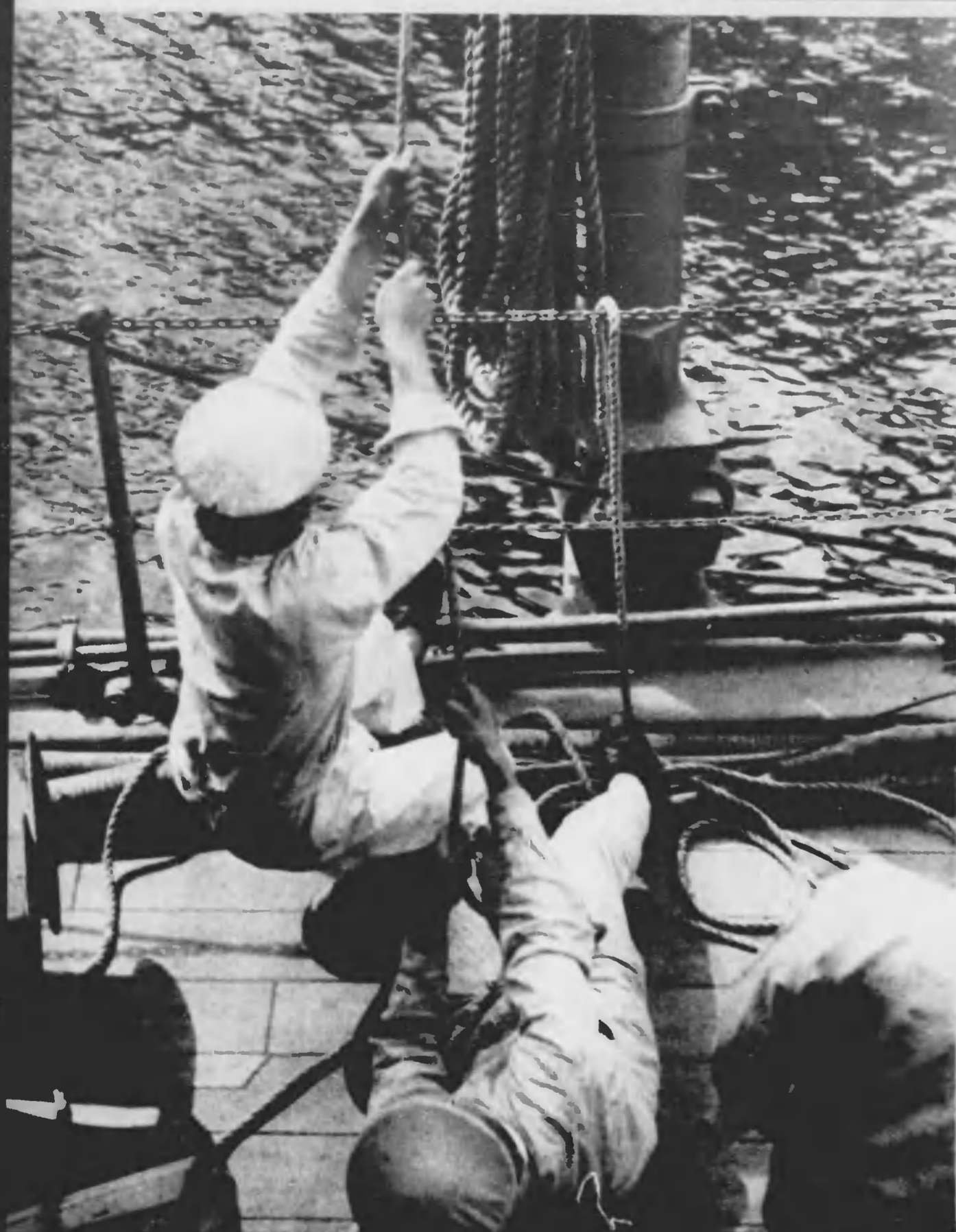


軍艦旗に 栄光あれ



「軍艦旗」海軍軍人にとつてこの一語は再生のやうなもので、それと聞くと素れた心も奮としていふべからざる感涙に打たれるのだ。嘗て布疋に於て私が始めて東海元帥 當時の浪花艦長海軍大佐 に出逢し種々教訓を受けた際、「我々は何時も軍艦旗を見詰めておれ」といふ言葉を、腹を打たれた。この一言が必々と味はれて、感涙と涙が顔を濡す。海軍中將小笠原長生子爵は述べておられる。

「軍艦旗の輝く一帯は、この一言に響きあふまうといへやう。而して元帥が躬を以て徳を示せしこの不朽の教訓は、永遠に海軍の精神的神髄として、我が海軍將士の胸奥に響々と傳へられて行くのである。」



軍艦旗制定五十周年に際して
海軍省海軍事務及部

わが軍艦旗は紅の日章から四周に十六條の光線が放射してゐる象であつて、これはいふまでもなく「御威威を四海に輝かせ」との意義に外ならぬものと考へられる。

長くも 明治天皇が、維新に際し下し給へる 徳光安撫 副官宣布の御威威に 萬里ノ波濤ヲ開拓シ國威ヲ四方ニ宣布シ天下ヲ富岳ノ安キニ置カントヲ欲ス と仰せられてゐるが、我が旭日旗たる軍艦旗はこの大御心をそのまま表徴してゐるものである。而して十六條の御光が菊花御紋の形より導かれたものと拜察され、或は又羅漢の十六點方位とも解せられ、いづれにしても皇威の八紘に及び、四海萬民の皇座を中心として輝一せる有様を表徴したものに外ならないのである。

我等海軍軍人は軍艦旗を以て、陛下の御影なりと仰いでゐるのである。

即ち軍艦旗を掲揚せる海軍艦船は、長くも 大元帥陛下の輜輪たるを表はすものである。又、戦艦に際しては軍艦旗が戦艦として各艦の旗頭高く掲げられ、空軍の御旗の下に勇戦奮闘する。この場合特に軍艦旗は戦艦と呼ばれるのである。

故に、軍艦旗は國旗のもつ意義を含むと共に戦時平時を問はず海軍艦船に掲揚してその國籍を表示するばかりでなく、國家の主權を表徴するものであるから、軍艦旗を掲げた艦船は軍艦外務令による諸特權を附與され、又軍艦旗は國旗と同様に祝祭敬禮等に關する意志表示としても用ひられるのである。

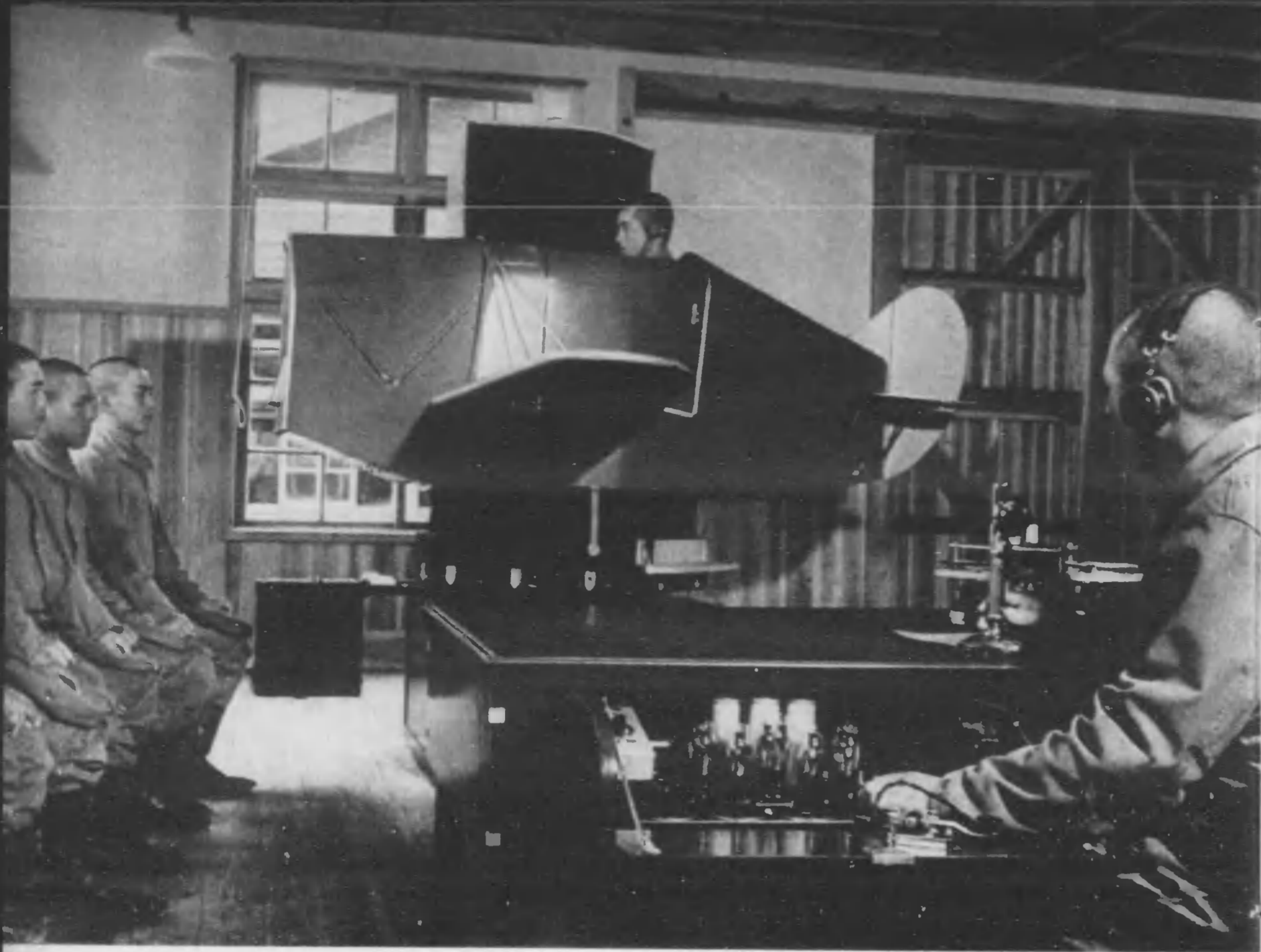
我が軍艦は他國の港灣に入港し場合、軍艦旗の掲揚降下の際には、内地に於けると同様君が代の奏樂に之を掲揚するのであるが、君が代が終つた後、其の國の國歌を奏樂し、次いで所在外國國歌（指揮官の先任順）に對するのである。（外國の軍艦に在つても同様）この間附近に在る外國人は無學なる苦力に至る迄能く我が軍艦旗に對する禮を辨へ、姿勢を正し祝禮するを常としてゐる。

我が海軍軍人は勿論軍艦旗の掲揚降下を日課する時は、之に面して敬禮を行つてゐるが、一般國民も亦之に敬ふべきことは日本臣民として當然のことである。

軍艦旗は以上の如き意義と權威を有し、神聖尊嚴なるものであるが、旗そのものは、陸軍の聯隊旗の如く、陛下より親授せらるるものではない。これは前記の如き軍艦旗の性質上常に最も鮮明なることを要するもので何分にも煤煙、砲煙を浴び、風雨に曝されるので非常に傷み易く、傷んだものは之を修繕し、又は新しくしなければならぬからである。

然し乍ら、苟も海軍艦船に懸つてゐる軍艦旗は、我が大日本帝國の主權の存在を表し、大元帥陛下の艦船たることを意味し、又廣く帝國海軍をも表徴すること既述の通りである。

撮影 星月文書



兵空航年少軍陸

校學行飛軍陸谷熊

大陸の空をまじと翔ける無敵・陸の空軍。その雄がこゝで育つ。熊谷陸軍飛行学校。十月十日長くも行幸の榮を賜はつて全校の士氣いやが上にも奮ひたつ。空の精鋭の集立つところ。

関東平野の中央に位して、教室、修理工場、氣象觀測所等、すべて整つた設備の整つたこの學校に今〇〇名の若い少年航空兵が鋭にも勢らぬ熱心な教官の下に、たゞひたすら飛行機のことばかり想ひ考へ、日夜一心不亂に胸を磨いてゐる。

異常な生活、異常な精進の裡に、規正正しい行動の裡に、明日への強く頼母しい抱負が光つてゐるのだ。



黎明をつんざく起床ラッパ。朝、五時半、秋冷は膚にしみる。起床、洗顔、動線。



今日は朝から資料訓練。すばやくつける飛行服。整列して週番士官の服装点検だ。



落下傘の準備室。天井から大きく吊下げたこの羽二重の細工にミンのほころびはないか、糸目のひきつりはいいか。

教官では航空學、氣象學、電信法等澤山な學科が待ちうけてゐる。右はモールの發信法。上はきりもみから如何にしてあわてずに脱出するかを習ふ。

撮影 鈴木 實





吹流しは順風だ。離陸の白旗がサツと振られる。尾翼に赤く日本一(一)と校章を染めぬいた練習機は元氣満ちた少年航空兵と助教をのせて。

出発前の訓示終り！
 日一成長してゆく少年航空兵の飛行帽のかぶり方。飛行靴の足さばき。——もうすつかり身についた。

快晴の秋空、遠く秩父連山の峯々にはかすみ白い雲がちぎれとんでゐる。操縦飛行の練習は空高く。

起動自動車がするくと近づいてプロペラはグワッ、パ、パ、と空気をきる。カストル油の匂ひが流れる。

操縦桿の神経はデリケイトだ。すぐれた操縦士とは、わが身と操縦桿とを渾然一致させることにある。





「ウワー、風呂だ」秩序正しくこのひととき、サア、汗おとせ、戦れを流せ。

少年航空兵も一般の軍隊教練をおこなわない。夕食前、腹のへつたのも忘れてわが小銃の手入れをする。

夜の自修室。静かな勉強室だ。ひもとくのは学科の教科書。記すのは父母への便り。就寝前の一日の反省もここで。胸つよく、情やさしく、育てよ飛べよ、未来の空を！



無言で見まもる親心。望遠鏡にうつるわが子らの姿、に救へ甲斐あれ！

大規模飛行、数十のエンジンが奏でるうちに、未の黄ばんだ桑の秋葉はそよおのしく。



「同乗終了！」着陸報告。地上に降り立つて今日一日、腕もグンとあがり、快いつかれが全身を傳ふ。



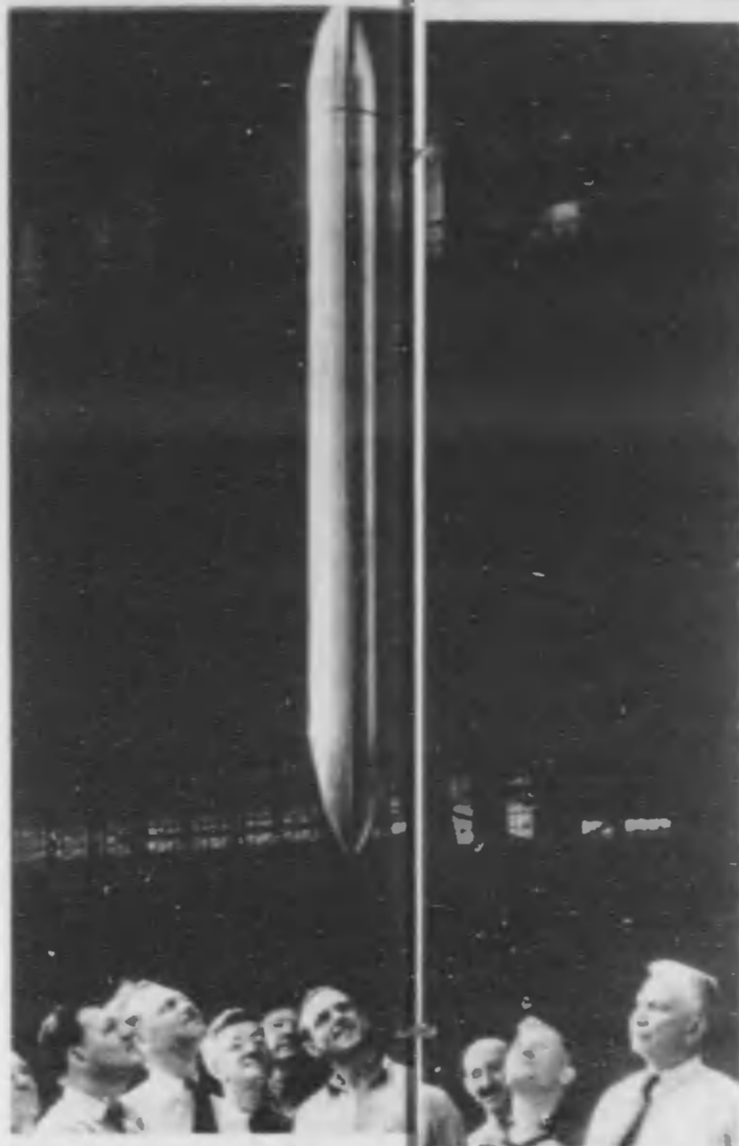
方彼の海



ドイツの新鋭飛行艇
ドイツが誇る新鋭飛行艇D
O26は、この程ベルリン郊
外ミッテグアル湖に於いてそ
の勇姿を現はした。其の長さ
三十米、兩翼には夫々前後
に二個づきのモーターが設置
されて、モーターが二階建
になつてゐる所が新しい。
大西洋航路に就航する筈であ
る。



ガラス製の人體模型
健康な人體の内臓機關はど
ういふ風に配置されてゐるか
が、つきり分るガラス製の人
形が最近ドイツのカイザーダ
ムの博覧會に出品された。



現代文明を
五千年後に傳へん

一九三八年の世界現状のあ
らゆる記録を、ごく小さいワイ
ルムにおさめ、之を文獻とし
て、結核の銅と鋼の合金屬容
器に入れ、紐育の地下五十
呎のところに埋藏。五千年後
の地球人に信託により見せよ
うと云ふアメリカ人の計
畫。起案及び設計はウエスチ
ングハウス電氣會社。來年の
紐育世界博に陳列後、直ちに
埋藏するといふ。

米國民衆チェコ支持
チェコの危局に際し米國
當局は中立維持平和案を宣
布したが、一般民衆は小國チ
ェコに同情し、九月廿五日に
會が開催された。

米陸軍のオート
ジャイロ訓練
アメリカ、オハイオ州デイ
ントンにある米陸軍のオートジ
ャイロ訓練の編隊飛行練習、各機
とも複座式であるが、學生の
軍用機師である。

ゼノアの防衛伊
滿洲國修好使節團
訪獨伊滿洲國修好使節團の
一行はイタリ朝野の熱誠こ
もる歓迎を受け、各地に滿伊
親善の實を擧げ、ついで九月
廿四日ドイツ首都に入つた。
高麗はイタリ、ゼノアの
アンサルド機械工場見學の一
行。



富真協會・同慶通信社



東京市営バスとして好評噴々たる

ニッサン バス

御愛用願上ます



東京 日産自動車販売株式会社 丸ノ内

可愛らしくて洗練された
主婦の必需品

トコトコの子供服

手作田中千代夫人

縫製サービス
ステーション

東京—銀座
大阪—心齋橋
神戸—吉田町
京 城—本町

内閣情報部編輯 週報

トコトコの子供服の策圖

内閣印刷局發行

所 込 申 價 定

一ヶ月 五圓

半年 二十五圓

一年 五十圓

郵費別

東京市豊島區
高橋一丁目
電話二九〇〇

全国各地官報發行所
東京官報發行所
最寄書店・郵便店

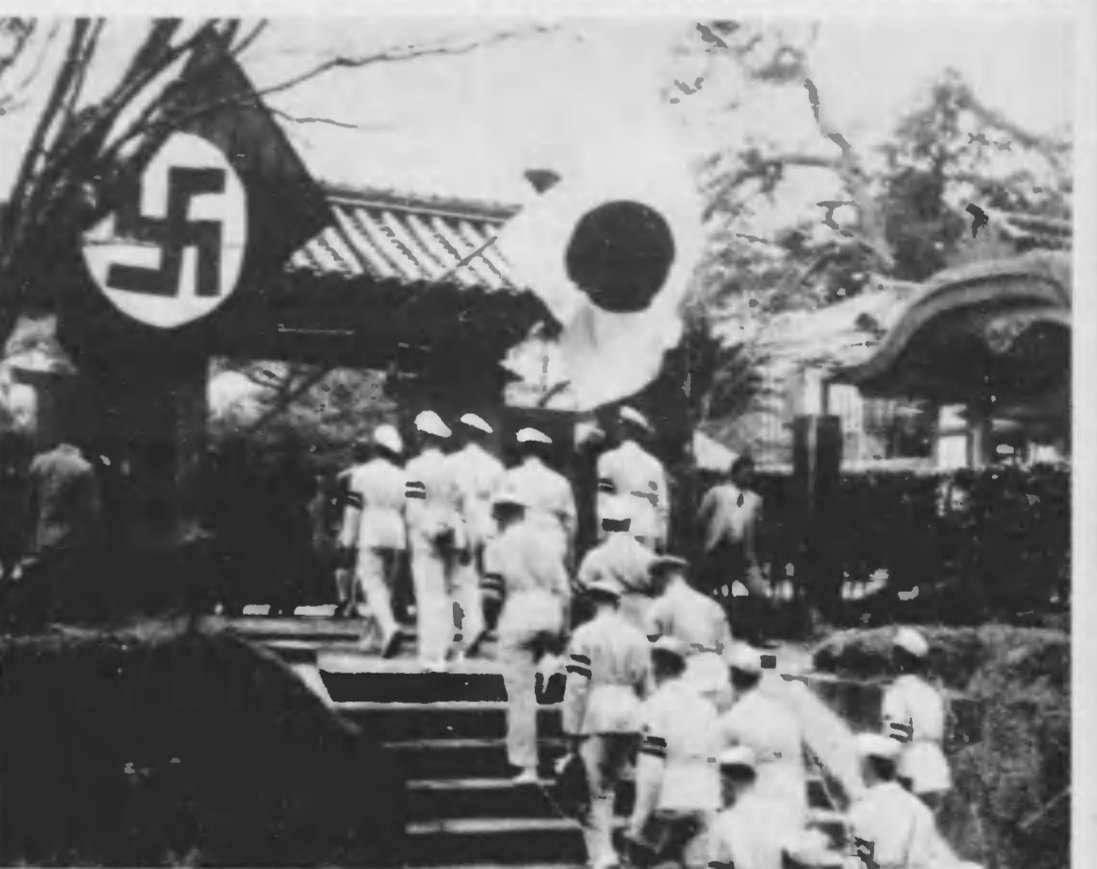
日本郵政省の下方は内閣印刷局東京中出下



讀者のカメラ

蒼空へ、蒼空へ
東京市大森區 辻本幸造

飛行機は國民スポーツの
水陸に引きあはれようとし
てゐる。若人たちは今日もグ
ライダー練習に懸命だ。一、
二、一、二、走れ、走れ、と
友だちがゴム調を曳けば、
飛んだ、飛んだ、操縦棒をし
つかと握つた少女を乗せて、
秋はれの蒼空のたゞ中へ、見
事に飛んだ。



非常時懸慮拂ひ
東京市豊島區 高橋一丁目
トコトコ...今日は鎮
守のお祭りだ、けれど非常時
この秋は、露る紅白、お獅子
の振ふ、振ふかしら毛いやま
し強く、光る顔に悪魔もすく
む、悪魔退散、五穀は豊穰、
みゆる故郷だ、兵隊さんたち
よ、心配せずとも飯後は堅
い...

本居宜長を偲ぶ
三重縣松阪市 小宮義藏
十月九日友邦ドイツのヒ
トラ・ユングート一行は、
わが國の船、本居宜長翁の
跡の屋を見學、翁の偉業と人
格をしのび、戦時下日本の運
進と思ひ合はして日本精神に
心からの共感を示した。

本發行所の變更

本誌は創刊以來内閣情報部
に於て編輯發行致して居りま
したが、次號から發行所を内
閣印刷局に移すことになりま
した。従つて「週報」と同様
内閣情報部編輯・内閣印刷局
發行となる譯であります。
今後とも一層内容の充實と
完璧を期し各位の御期待に添
ふや努力するつもりであります。
なほこれまで前金で寫眞週
報配達部に御申込になつて
お読者に對しては、前金切ら
なる迄は従來と同様送付いた
しますがそれ以後は内閣印刷
局又は最寄販賣店に御申込み
下さい。

所 込 申	價 定
寫眞週報配達部 東京市豊島區高橋一丁目二二〇番 電話二九〇〇	一ヶ月 五圓 半年 二十五圓 一年 五十圓
全国各地官報發行所 東京官報發行所 最寄書店・郵便店	郵費別
寫眞週報發行所 東京市豊島區高橋一丁目二二〇番 電話二九〇〇	郵費別

寫眞週報(兼郵費)

昭和十三年十月二十六日印刷發行

編輯部 内閣情報部
東京市豊島區本町
印刷部 大日本印刷株式會社
東京市豊島區中出下

旭日十六條のわが軍艦旗
橋頭高くひるがへれば大和
男の子の血は湧き、艦尾に
風を切れば大日本帝國臣民
の幸をみまらる。
潮を浴び、風雨と戦ふわ
が海の子の魂。

攝影 望月文吾



東京海上火災保險株式會社

開業 明治十二年八月
 資本金 七千五百萬圓
 諸準備金 一億八百萬圓

營業種目

海上 火災 海上 硝子
 運送 盜難 航空
 自動車 森林 傷害

本社 東京丸ノ内
 支店 大阪・神戸・新京
 出張所 橫濱・福岡
 名古屋・上海

寫眞週報

編輯部報情閣內
ンセ十・號八卅第・日二月一十

昭和十三年十一月十一日 第三四四號 東京新聞社發行 每份八錢



國民精神作興週間
十一月七日—十三日





撮影
菊地賢三郎

明治節奉祝
 御稜威の輝くところ、皇軍忠武の凝る
 ところ、今年廣東附
 ち、漢口の攻陥亦成
 つた。この清朝の氣
 の裡に、明治の佳節
 を迎へるとは日本
 國民にとつてどんな
 に大きな喜びであら
 う。然し戦ひはこれ
 からだ。本格的長期
 建設への輝かしい發
 足はここになされる
 菊花嶺都と香るこ
 の佳き日、我々は明
 治天皇の御聖徳を仰
 ぎ、御鴻業を偲び奉
 るとともに、愈々皇
 忠報國の精神を昂め
 特に時局の現段階に
 於ける國民の重大使
 命を自覚し、國家の
 総力を挙げて聖戰所
 期の目的貫徹に邁進
 するの決意を一層堅
 からしめたい。
 十一月三日午前九時
 國民奉祝の時間

～北～南
 てえ越を海 け往



天津、大連、
 臺灣、小笠原、樺太、
 千島、方面へは
 近海郵船で
 上海、青島、南洋へは
 日本郵船で

東京
 丸の内
 近海郵船株式會社